



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎ 0276-88-5511 (代表)
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
☎ 0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話しをお届けします。
お年寄りたちの貴重な体験談〈第十七回〉

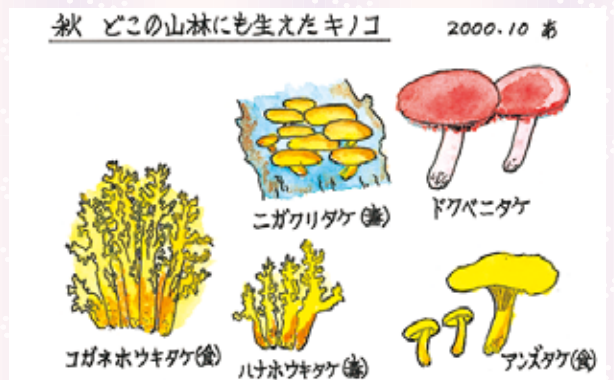
あすへひとこと

思い出の味(キノコ)

昔はよかったなあ。私とおやじは、口癖のようにこう言った。
私とおやじは、キノコ取りでは名人(?)といわれるほどの実績を持っていた。キノコ取りというのは、ただ単にガサガサ山を歩き回るだけが能ではなく、そのキノコの生える代の特長を知ることが第一であり、第二に、その代を他人に知られないようにしなくてはならない。したがって、その土地の生え抜きの者でないと、キノコの代は容易に探せない。もし、よそ者がまぐれに当たっても、すでに土地の者が取った後で、まとまった収穫は望めない。足を棒にして歩いた割には、収穫が少ないのはキノコ取りの遠征である。キノコ取りにある泣きどころは、ただそ



と、五銭から十五銭で売れた。一箱三十本内外の詰めであった。
十月の中旬に入ると、シメジ、クロカワ、ナラタケ、カメタケなどが至るところの山林に生え、クロカワは、前記前原地区のぼてれん橋の北、今の中学校の西山が最も多く、ここでは霜が降りるころまで収穫が続いた。ほかの地区では篠塚の大神宮山古墳群が松山だったので、よい代であった。シメジも、この大神宮山の一部、前大黒地内、篠塚城跡二の丸附近、篠塚正泉寺裏山が代であり、よく生えた。昼なお暗い山道が何か所もあった昭和初期の篠塚地内、中野のごく南部の地帯は、キノコの生えることでは随一とされていた。
そのころ(昭和初期)は、一般にキノコに関心が薄かったので山に入る人は少なく、それを読み込んで、私とおやじは先を越し、いつも売れるほど取りまくった。
あのクロカワのほろにがい味は、もう五十年近くも味わう機会がないし、これからは昔語りとなり、キノコを語る人は恐ろしくないだろう。



挿絵 故・厚川小一さん
広報おうら平成12年10月・11月号裏表紙「あしもとに故郷 ふるりのノスタルジア(9)」、「(10)」より
高齢者の語り第一集
「あすへひとこと(昭和六一年二月一日発行)」より
「思い出の味(キノコ)」
故・厚川小一さん(寺中・二六区)



秋、迫り来る
(シンボルタワー)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりと From editors

▼やっと朝夕が涼しくなってきました。いよいよ秋到来です。秋といえば、食欲?読書?スポーツ?最近、運動会を夏前に行う学校もあるそうですね。▼運動会といえば、やっぱり町民体育祭。私は小学1年から、ほぼ毎年リレーに出ていました。足が速かったわけではなく、ほかに該当年齢の子がいなかったから。残念ながらよい成績は残せませんでした。慰労会の弁当が必ず「魚新」だったことや、慰労会後の肝試しなど、地区の人との楽しい思い出は残っています。▼今や選手不足で町内対抗野球大会(盆野球)に出られない行政区がある時代。町民総参加行事の町民体育祭がいつまでも続くことを切に願います。(秋)

「あすへひとこと」(邑楽町老人クラブ連合会・あすへひとこと編集委員会)は、邑楽町在住のお年寄りたちの貴重な体験談を、邑楽町あすへひとこと編集委員会が編集・発行したものです。